

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	別府大学
設置者名	学校法人別府大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部等 共通 科目	専門 科目	合計		
文学部	国際言語・文化学科	夜間・通信	2	24	25	51	13	
	史学・文化財学科	夜間・通信			26	52	13	
	人間関係学科	夜間・通信			28	54	13	
食物栄養科学部	食物栄養学科	夜間・通信		6	47	55	13	
	発酵食品学科	夜間・通信			34	42	13	
国際経営学部	国際経営学科	夜間・通信		4	24	30	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

学部ごとに実務経験のある教員等による授業科目名とその単位数を明示し、それらの合計単位を明示した一覧表を作成し、情報公開ホームページで公表する。
URL : <https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	別府大学
設置者名	学校法人別府大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページ（<https://www.beppu-u.ac.jp/general/academy/about/>）

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	(現) 民間企業 代表取締役社長	R4. 6. 1 ～8. 5. 31	経営、教学 ・コンプライアンス
非常勤	(現) 民間企業 代表取締役会長	R3. 6. 1 ～7. 5. 31	経営、教学 ・コンプライアンス
非常勤	(現) 民間企業 代表取締役社長	R3. 6. 1 ～7. 5. 31	経営、教学 ・コンプライアンス
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	別府大学
設置者名	学校法人別府大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
・授業計画(シラバス)の作成過程 シラバスは、教務委員会で作成した「シラバス作成の手引」により各教員が作成し、教務委員に提出し、教務委員がこれをチェック・確認し、作成している。 シラバスの内容については、授業概要、到達目標、授業計画、履修条件や関連する科目等、教科書、評価方法とその割合、評価基準、学習相談及び学習成果のフィードバック、法令等に定められた授業科目に含める必要事項、学生へのメッセージ(実務経験のある教員による授業科目についてはその旨)ナンバリング等を記載している。 なお、授業の方法(講義、演習、実験、実習の別)については、開講科目一覧を学生に配布し、この中で記載している。 ・授業計画の作成・公表時期 毎年3月末までに作成し、4月初旬に公表している。	
授業計画書の公表方法	ポータルサイト、履修登録の画面及び大学の情報公開画面で公表している。 https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
・単位授与または履修認定の厳格かつ適正な実施状況 シラバスで示した評価方法・基準とその割合により、学科履修規程に基づき厳格に成績評価を行い、適正に単位を与え、履修を認定している。 ・学習意欲の把握 担任による、成績通知書を基にした年2回の学生面談により、学習意欲を把握し、その結果をポートフォリオに記録している。また、その面談の際に学生生活状況等も含めて学生の学修・生活状況を把握している。	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)	
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)	
・GPA等の客観的な指標の具体的内容(指標の算出方法など) 「GPA制度の取扱いに関する規程」を下記のとおり定め、学生に周知するとともに、各個人のGPA値については、成績通知書により、各学生及び保護者に通知している。 ・客観的な指標の適切な実施状況 科目GPAによる成績分布表(別紙1)を作成し、加えて科目GPによる科目別成績概要を作成し、学部ごとに「成績分布状況の把握」を行い、各学科において検証を行い、大学企画運営会議で教育課程プログラムの成果の検証を行っている。 また、学部ごとに科目GPによる成績分布表を学生に掲示板により周知している。	

記

別府大学における GPA 制度の取扱いに関する規程

(目的)

第1条 この規程は、別府大学（以下「本学」という。）における成績評価を係数（Grade Point）（以下「G P」という。）で表し、取得したG Pの平均値による学業評価指数（Grade Point Average）（以下「G P A」という。）制度によって、学生の学修指導等に資することを目的とする。

(成績評価とG P)

第2条 本学学則（以下「学則」という。）第31条に基づく各学部の学科履修規程第14条に定める成績の点数に与えるG Pの計算は、次によるものとする。

- 2 G Pは、当該授業科目の成績点から55を控除して得た点数を10で除した値とし、その計算式は、次のとおりとする。

$$G P = (\text{成績点} - 55) / 10$$

- 3 成績標語、成績点に対応するG Pは、次の表のとおりとする。

成績標語	成績点	G P
AA	90～100	3.5～4.5
A	80～89	2.5～3.4
B	70～79	1.5～2.4
C	60～69	0.5～1.4
F	0～59	0.0
欠席	—	0.0
失格	—	0.0

- 4 再試験を受験して「C」の評価を得た場合は、そのG Pで計算する。

- 5 一つの授業科目の一旦取得した評価を上位の評価に差し替えるために再履修し、上位の評価を取得できた場合は、上位のG Pを適用できる。ただし、上位の評価を取得できなかった場合は、元評価のG Pとする。

(G P Aを算出する授業科目)

第3条 G P Aを算出する授業科目は、学則第26条第6項別表第1に規定している授業科目で、学生が履修登録した授業科目とする。

- 2 G P Aから除外する授業科目

- (1) 編入学、再入学、転入学又は転学部・学科した際に単位認定した授業科目
- (2) 学則第32条に規定する入学前の既修得単位として単位認定した授業科目
- (3) 学則第33条に規定する他の大学等において履修した授業科目
- (4) 学則第34条に規定する大学以外の教育施設等における学修で単位認定した授業科目

(G P Aの算出方法)

第4条 G P Aは、学期ごとに算出する「学期G P A」及び卒業（修了）時に算出する「通算G P A」とする。

- 2 学期G P A及び通算G P Aの計算は、次による。

- (1) 学期G P Aは、当該学期で得た取得点の合計を当該学期で履修登録した単位数の合計で除して得た数値とする。

$$\text{学期G P A} = \frac{\text{取得点の合計}}{\text{履修登録した単位数の合計}}$$

履修登録した単位数の合計

(2) 通算GPAは、各学期で得た取得点の総和を各学期で履修登録した単位数の総和で除して得た数値とする。

$$\text{通算GPA} = \frac{\text{各学期で得た取得点の総和}}{\text{各学期で履修登録した単位数の総和}}$$

3 取得点は、当該授業科目の評価で得たGPを当該授業科目の単位数を乗じて得た数値とする。

(学修指導の目安)

第5条 学生のGPAによって次の目安を参考にして学修等の指導を行う。

GPA	評価の状況	学修の状態
3.01～ 4.50	AA～A評価を平均的に修得	授業科目の内容を良く理解しており、試験において優れた成績を修めている。非常に優秀。特に問題はない。
2.01～ 3.00	A～B評価を平均的に修得	授業科目の内容を標準的なレベルで理解しており、試験において標準的な成績を修めている。問題はないが、学期ごとに下がっている場合は注意が必要である。
1.01～ 2.00	B～C評価を平均的に修得	授業科目の内容は理解でき、試験において合格と認められる低いレベルの成績を修めている。本人の学修姿勢によっては、急激に不合格科目が増えることもあるので、注意が必要。
0.50～ 1.00	不合格科目、失格、欠席が多い	授業科目の内容は理解できているが、試験において最低限度の成績を修めている。学習面、生活面で問題を抱えている場合が多く、学修状況や生活面での指導が必要になる。
0.5 未満	不合格科目、失格、欠席が特に多い	授業科目の内容の理解が乏しく、多くの試験において最低限度の成績を修めていない。学習面、生活面で問題を抱えており、学修状況での継続的な学修指導や生活面での指導が必要になる。

(履修取消)

第6条 第3条第1項に定める授業科目で履修登録した授業科目について履修の取り消しを希望する場合は、履修変更期間とは別に定める当該学期の所定の期間内に所定の申請書を教務課に提出しなければならない。ただし、この場合において取り消した科目とは別の科目を履修登録することはできない。

2 履修取り消しのない授業科目は、GPAの対象科目とする。

(GPAの学生への通知)

第7条 GPAの学生への通知は、成績通知書によって行う。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、GP及びGPAの取扱いに関する必要な事項は別に定める。

附 則

1. この規程は、平成23年4月1日から施行する。 2. この規程は、平成30年9月11日から施行し、平成30年9月11日に在籍する学生から適用する。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	大学の情報公開画面で公表している。 https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 卒業の認定方針(ディプロマ・ポリシー)を下記のとおり学科ごとに作成し、必要に応じ見直しを実施している。 また、同方針は、学生へは「学生生活」等の便覧で周知し、さらにカリキュラム・マップを作成し、到達目標としてシラバスに掲載して周知している。 卒業については、この方針や修得単位等を踏まえ、適切に認定している。	
記	
ディプロマ・ポリシー 文学部 国際言語・文化学科	
国際言語・文化学科は、大学の定める課程を修了し、「教養」「専門力」「汎用力」の3つの力を身につけたと認められる学生に学士(文学)の学位を授与する。学修にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。	
1. 教養(人間性の形成に資する幅広い知識、技能) (1) 大学教育に必要な思考力や表現力などの基礎的素養を身につけ、大学の建学の理念、教育方針等を理解している。 (2) 特定の主題について、多角的、総合的、複合的に思考する能力を身につけ、体験や実践の中から学ぶことができる。 (3) 人間と文化の探求、現代社会の多面的理解、科学技術と自然環境の理解に必要な基礎的素養を身につけ、情報処理や英語の基本的なリテラシーを身につけている。 (4) 専門分野の学修を通じて、人間や社会、学問等についての基礎的素養を身につけている。	
2. 専門力(専門に関する基本的な知識、技能) ＜社会的意義＞文学や芸術のもつ社会的な意義や、文学や芸術を学ぶことによって社会でどのような役割を担うことが期待されているかを明確に理解している。 ＜職業生活で評価される能力＞文学や芸術の専門教育を通して、職業生活等で評価される能力として、特に日本語・日本文学コースは日本語力及び文章力、英語・英米文学コースは英語力及び文章力、芸術表現コースは創造力及び作品制作能力を身につけている。 ＜専門に関する能力＞ (1) 日本語・日本文学コース ① 上代から近現代にいたる日本文学の歴史、外国文学の影響、表現技法の特色などを古典や名著を精読して理解し、作家・作品研究の基礎を身につけている。 ② 日本語について音声や語彙、文法、歴史等に関する知識を多角的に修得し、日本語研究の基礎能力を身につけている。 (2) 英語・英米文学コース ① 英文を正確に記述し、会話できる能力を身につけている。	

②英語について音声や語彙、文法、歴史等に関する知識を多角的に修得し、英語研究の基礎知識を身につけている。

③英米文学作品を精読し、英米文学の歴史、文化、作家等を深く理解し、考察できる。

(3) 芸術表現コース

①芸術表現、美術史、言語文化についての幅広い知識を修得し、美術史研究と比較文化研究の基礎能力を身につけている。

②マンガ、デザイン、映像・アニメーション、絵画の作品を創作する知識・技能を修得する。

(4) コース共通

①4年間の学修の総仕上げとして、自らテーマを設定し、研究や制作を行い、論文や作品にまとめることができる。

3. 汎用力（社会で活用できる汎用性のある能力）

(1) 思考力

論理的に考え分析する能力、常に自らの学びを省察し課題を見つけて改善することができる能力を身につけている。判断力、創造力、企画力などを含む。

(2) 実行力

自ら計画し実行することができる。組織での活動においてリーダーシップを発揮するとともに、他者と協調しながら目標を達成する力を身につけている。主体性、協働性、傾聴力などを含む。

(3) 表現力

自分の考えを的確かつ巧みに文章或いは口頭で表現することができる。場面にふさわしい言葉遣いやマナー、振る舞い、豊かなコミュニケーション力を身につけている。発信力、日本語力、外国語力などを含む。

(4) 情報力

我が国のみならず国際的な動向や問題に幅広い関心を持ち、図書やICT機器を用いて必要な情報を収集できる力を身につけている。情報収集分析力、PCスキルなどを含む。

文学部 史学・文化財学科

史学・文化財学科は、本学の定める課程を修了し、「教養」「専門力」「汎用力」の3つの力を身につけたと認められる学生に学士（文学）の学位を授与する。学修にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。

1. 教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）

(1) 大学教育に必要な思考力や表現力などの基礎的素養を身につけ、本学の建学の理念、教育方針等を理解している。

(2) 特定の主題について、多角的、総合的、複合的に思考する能力を身につけ、体験や実践の中から学ぶことができる。

(3) 人間と文化の探求、現代社会の多面的理解、科学技術と自然環境の理解に必要な基礎的素養を身につけ、情報処理や英語の基本的なリテラシーを身につけている。

(4) 専門分野の学修を通じて、人間や社会、学問等についての基礎的素養を身につけている。

2. 専門力（専門に関する基本的な知識、技能）

<社会的意義>歴史学、文化財科学のもつ社会的な意義や、歴史学、文化財学を学ぶことによって社会でどのような役割を担うことが期待されているかを明確に理解してい

る。

＜職業生活で評価される能力＞歴史学、文化財学の専門教育を通して、職業生活等で評価される能力として、特に資料を収集し分析する能力、観察力、洞察力、判断力、表現力、実践力を身につけている。

＜専門に関する能力＞

(1) 日本史・アーカイブズコース

- ①日本史・アーカイブズ学の学修に必要な基礎的な知識を修得している。
- ②日本史の専門領域に関する深い知識を修め、歴史についての多角的な理解、洞察力を身につけている。

(2) 世界史コース

- ①世界史の学修に必要な基礎的な知識を修得している。
- ②世界史の専門領域に関する深い知識を修め、歴史についての多角的な理解、洞察力を身につけている。

(3) 考古学・文化財科学コース

- ①考古学・文化財科学の学修に必要な基礎的な知識を修得している。
- ②考古学・文化財科学の専門領域に関する深い知識を修め、調査や発掘、文化財の保存修復や科学分析等の技能を体験的に修得している。

(4) コース共通

- ①4年間の学修の総仕上げとして、自らテーマを設定し、研究を行い、論文にまとめることができる。

3. 汎用力（社会で活用できる汎用性のある能力）

(1) 思考力

論理的に考え分析する能力、常に自らの学びを省察し課題を見つけて改善することができる能力を身につけている。判断力、創造力、企画力などを含む。

(2) 実行力

自ら計画し実行することができる。組織での活動においてリーダーシップを発揮するとともに、他者と協調しながら目標を達成する力を身につけている。主体性、協働力、傾聴力などを含む。

(3) 表現力

自分の考えを的確かつ巧みに文章或いは口頭で表現することができる。場面にふさわしい言葉遣いやマナー、振る舞い、豊かなコミュニケーション力を身につけている。発信力、日本語力、外国語力などを含む。

(4) 情報力

我が国のみならず国際的な動向や問題に幅広い関心を持ち、図書やICT機器を用いて必要な情報を収集できる力を身につけている。情報収集分析力、PCスキルなどを含む。

文学部 人間関係学科

人間関係学科は、本学の定める課程を修了し、「教養」「専門力」「汎用力」の3つの力を身につけたと認められる学生に学士（文学）の学位を授与する。学修にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。

1. 教養力（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）

- (1) 大学教育に必要な思考力や表現力などの基礎的素養を身につけ、本学の建学の理念、教育方針等を理解している。
- (2) 特定の主題について、多角的、総合的、複合的に思考する能力を身につけ、体験や実践の中から学ぶことができる。

- (3) 人間と文化の探求、現代社会の多面的理解、科学技術と自然環境の理解に必要な基礎的素養を身につけ、情報処理や英語の基本的なリテラシーを身につけている。
- (4) 専門分野の学修を通じて、人間や社会、学問等についての基礎的素養を身につけている。

2. 専門力（専門に関する基本的な知識、技能）

＜社会的意義＞心理や福祉のもつ社会的な意義や、心理や福祉を学ぶことによって社会でどのような役割を担うことが期待されているかを明確に理解している。

＜職業生活で評価される能力＞心理や福祉の専門教育を通して、職業生活等で評価される能力として、特にコミュニケーション力、チームワーク力を身につけている。

＜専門に関する能力＞

- (1) 領域の選択に応じて、社会福祉・精神保健福祉、心理、教育・生涯スポーツの各専門分野の専門的な知識を修得し、現場での実践力を身につけている。
- (2) 4年間の学修の総仕上げとして、自らテーマを設定し、研究を行い、卒業論文にまとめることができる。

3. 汎用力（社会で活用できる汎用性のある能力）

- (1) 思考力

論理的に考え分析する能力、常に自らの学びを省察し課題を見つけて改善することができる能力を身につけている。判断力、創造力、企画力などを含む。

- (2) 実行力

自ら計画し実行することができる。組織での活動においてリーダーシップを発揮するとともに、他者と協調しながら目標を達成する力を身につけている。主体性、協働性、傾聴力などを含む。

- (3) 表現力

自分の考えを的確かつ巧みに文章或いは口頭で表現することができる。場面にふさわしい言葉遣いやマナー、振る舞い、豊かなコミュニケーション力を身につけている。発信力、日本語力、外国語力などを含む。

- (4) 情報力

我が国のみならず国際的な動向や問題に幅広い関心を持ち、図書やICT機器を用いて必要な情報を収集できる力を身につけている。情報収集分析力、PCスキルなどを含む。

食物栄養科学部 食物栄養学科

食物栄養学科は、本学の定める課程を修了し、「教養力」「専門力」「汎用力」の3つの力を身につけたと認められる学生に学士(栄養学)の学位を授与する。学修にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。

1. 教養力(人間性の形成に資する幅広い知識、技能)

- (1) 大学教育に必要な基礎的素養を身につけ、また、本学の建学の理念や教育方針とともに、栄養学および健康科学を学修するための社会的意義を理解している。
- (2) 地域社会について、一つの分野に偏らずに、自然科学、社会科学および人文科学の融合した多角的、総合的、複合的に思考する能力を身につけ、体験や実践の中から学ぶことができる。
- (3) 人間と文化、社会科学の理解、自然科学と情報の理解に必要な教養を身につけ、また、国際理解のための外国語の基本的なリテラシーを身につけている。
- (4) 食物学や栄養学を学ぶための基盤領域の分野の学修を通じて、人間や社会、学問等についての基礎的素養を身につけている。

2. 専門力(専門に関する基本的な知識、技能)

＜社会的意義＞栄養学および健康科学のもつ社会的な意義や栄養学および健康科学を学ぶことによって人の生き方・暮らし方を選択する能力、社会の変化に対応して生活を組み立てる能力、次世代や他者の生活を支援する能力をもち、保健・医療・福祉・介護システムの中で、栄養補給、食関連サービスのマネジメントを行うことができる能力や健康の保持増進、疾病の一次、二次、三次予防のための栄養指導を行う役割を担うことが期待されているかを明確に理解している。

＜職業生活で評価される能力＞栄養学および健康科学の専門教育を通して、特に食・栄養・健康にかかわる専門職業人として社会貢献する能力を身につけている。

- (1) 社会・環境と健康の関係、健康の概念、保健・医療・福祉・介護システムについて、基礎的な知識を身につけている。
- (2) 人体の構造と機能、環境変化に対する対応機能および疾病の成因、病態、診断、治療、生体防御について基礎的な知識を身につけ、それに関する実験の技能を身につけている。
- (3) 食品の栄養特性・物性と食品成分の人間生活・健康に与える影響および食品の加工・調理や食の安全性・衛生管理について理解し、それに関する実験の技能や調理・加工技術を身につけている。
- (4) 健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割およびエネルギーや栄養素の代謝の生理的意義について理解し、それに関する実験の技能を身につけている。
- (5) 発育・加齢や妊娠など人体の構造や機能の変化に伴う栄養状態の変化と栄養アセスメント・栄養管理について理解し、それに関する実習技能を身につけている。
- (6) 健康・栄養状態、食行動、食環境に関する情報の収集・分析および栄養教育計画の作成・実施・評価について理解し、行動科学やカウンセリングに関する実習技能を身につけている。
- (7) 傷病者・クライアントの病態や栄養状態に応じた適切な栄養管理を行うために、栄養管理プロセス（栄養スクリーニング、栄養評価、栄養診断、栄養介入、栄養モニタリングと評価）について理解し、傷病者・クライアントの栄養指導に関する実習技能を身につけている。
- (8) 国や地域社会の健康・栄養問題や政策および活動、関連要因の情報収集・課題分析について学び、公衆栄養活動に計画立案・実施・評価等について理解し、それに関する実習・演習技能を身につけている。
- (9) 給食運営および物資や人材の資源の利用方法を学び、栄養面・衛生面・安全面・経営面の管理について理解し、総合的マネジメントに関する実習技能を身につけている。
- (10) 専門基礎分野と専門分野を横断した栄養学および健康科学について理解し、それらを活用できる総合的な能力を身につけている。
- (11) 管理栄養士の活動の場での栄養評価・栄養管理を行うために必要な知識と技術および関連職種との連携を理解し、それらを行うために技術を臨地校外実習で身につけている。
- (12) 実践的な活動の場での課題の発見と解決を通して、卒後に栄養士・管理栄養士として必要な知識・技能を理解し、演習を通じて身につけている。

3. 汎用力(社会で活用できる汎用性のある能力)

(1) 思考力

論理的に考え分析する能力、常に自らの学びを省察し課題を見つけて改善することができる能力を修得している。判断力、創造力、企画力などを含む。

(2) 実行力

組織での活動においてリーダーシップを発揮するとともに、他者と協調しながら目標を達成する力を修得している。主体性、協働力、傾聴力などを含む。

(3) 表現力

自分の考えを的確かつ巧みに文章或いは口頭で表現することができる。場面にふさわしい言葉遣いやマナーや振る舞いを身につけるとともに、豊かなコミュニケーション

ン力を修得している。発信力、日本語力、外国語力などを含む。

(4) 情報力

我が国のみならず国際的な動向や問題に幅広い関心を持ち、図書やＩＣＴ機器を用いて必要な情報を収集できる力を修得している。情報収集分析力、ＰＣスキルなどを含む。

食物栄養科学部 発酵食品学科

発酵食品学科は、本学の定める課程を修了し、「教養」、「専門力」、「汎用力」の３つの力を身につけたと認められる学生に学士（食物バイオ学）の学位を授与する。学修にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。

1. 教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）

- (1) 大学教育に必要な思考力や表現力などの基礎的素養を身につけ、本学の建学の理念、教育方針等を理解している。
- (2) 特定の主題について、多角的、総合的、複合的に思考する能力を身につけ、体験や実践の中から学ぶことができる。
- (3) 人間の探求、現代社会の理解、科学技術と環境の理解に必要な基礎的素養を身につけ、情報処理や運動と健康、英語の基本的なリテラシーを身につけている。
- (4) 専門分野の学修を通じて、人間や社会、学問等についての基礎的素養を身につけている。

2. 専門力（専門に関する基本的な知識、技能）

＜社会的意義＞発酵食品学等のバイオサイエンスのもつ社会的な意義や、バイオサイエンスを学ぶことによって社会でどのような役割を担うことが期待されているかを明確に理解している。

＜職業生活で評価される能力＞発酵食品学等のバイオサイエンスの専門教育を通して、職業生活等で評価される能力として、特に研究開発及び衛生管理の能力を身につけている。

- (1) 発酵食品学等のバイオサイエンスを学ぶための基礎スキルを身につけている。
- (2) 化学の基礎的な知識を身につけ、それに関する実験の技能を身につけている。
- (3) バイオサイエンスの基礎的な知識を身につけ、それに関する実験の技能を身につけている。
- (4) バイオテクノロジーの基礎的な知識を身につけ、それに関する実験の技能を身につけている。
- (5) 食についての基礎的な知識を身につけ、それに関する実験の技能を身につけている。
- (6) 食の安全の基礎的な知識を身につけ、それに関する実験の技能を身につけている。
- (7) 発酵と食品に関する専門的な知識を身につけ、発酵食品に関する製造の技術を身につけている。
- (8) 生活環境から地球環境の保全に関して微生物を活用できる知識を身につけ、その活用を図る能力を身につけている。
- (9) バイオテクノロジーについての知識を身につけ、それに関する実験の技能を身につけている。
- (10) 発酵食品の製造や経営に関する知識を身につけ、これを応用できる能力を身につけている。
- (11) 食品の生産、流通、経営に関する知識を身につけ、その活用を図る能力を身につけている。（食品流通コースを選択した学生のみ）

- (12) 香粧品や食品の香りに関する知識を身につけ、これらに関する実験の技能を身につけている。(食品香料コースを選択した学生のみ)
- (13) 就職活動に必要な能力、および校外実習を通じ自身の進路について理解を深め、将来の目標をたてる能力を身につけている。

3. 汎用力（社会で活用できる汎用性のある能力）

- (1) 思考力
論理的に考え分析する能力、常に自らの学びを省察し課題を見つけて改善することができる能力を身につけている。判断力、創造力、企画力などを含む。
- (2) 実行力
自ら計画し実行することができる。組織での活動においてリーダーシップを発揮するとともに、他者と協調しながら目標を達成する力を身につけている。主体性、協働力、傾聴力などを含む。
- (3) 表現力
自分の考えを的確かつ巧みに文章或いは口頭で表現することができる。場面にふさわしい言葉遣いやマナー、振る舞い、豊かなコミュニケーション力を身につけている。発信力、日本語力、外国語力などを含む。
- (4) 情報力
我が国のみならず国際的な動向や問題に幅広い関心を持ち、図書やICT機器を用いて必要な情報を収集できる力を身につけている。情報収集分析力、PCスキルなどを含む。

国際経営学部 国際経営学科

国際経営学科は、本学の定める課程を修了し、「教養」「専門力」「汎用力」の3つの力を身につけたと認められる学生に学士（経営学）の学位を授与する。学修にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。

1. 教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）

- (1) 大学教育に必要な思考力や表現力などの基礎的素養を身につけ、本学の建学の理念、教育方針等を理解している。
- (2) 特定の主題について、多角的、総合的、複合的に思考する能力を身につけ、体験や実践の中から学ぶことができる。
- (3) 人間と文化の探求、現代社会の多面的理解、科学技術と自然環境の理解に必要な基礎的素養を身につけ、情報処理や英語の基本的なリテラシーを身につけている。
- (4) 専門分野の学修を通じて、人間や社会、学問等についての基礎的素養を身につけている。

2. 専門力（専門に関する基本的な知識、技能）

＜社会的意義＞経営学のもつ社会的な意義や、経営学を学ぶことによって社会でどのような役割を担うことが期待されているかを明確に理解している。

＜職業生活で評価される能力＞経営学の専門教育を通して、職業生活等で評価される能力として、特に経営管理及び情報処理の能力を身につけている。

- (1) 経営学についての基本的な知識を身につけ、それを実践で活用する能力を身につけている。
- (2) 経済学についての基本的な知識を身につけ、それを実践で活用する能力を身につけている。
- (3) 会計学についての基本的な知識を身につけ、それを実践で活用する能力を身につけている。

ている。

- (4) 観光・地域経営についての基本的な知識を身につけ、それを実践で活用する能力を身につけている。
- (5) 経営に関連した法律についての基本的な知識を身につけ、それを実践で活用する能力を身につけている。
- (6) 経営に関連した情報システムについての基本的な知識を身につけ、それを実践で活用する能力を身につけている。
- (7) 経営学・経済学・会計学・観光学などについての国際的な知識を身につけ、それを実践で活用する能力を身につけている。

3. 汎用力（社会で活用できる汎用性のある能力）

(1) 思考力

論理的に考え分析する能力、常に自らの学びを省察し課題を見つけて改善することができる能力を身につけている。判断力、創造力、企画力などを含む。

(2) 実行力

自ら計画し実行することができる。組織での活動においてリーダーシップを発揮するとともに、他者と協調しながら目標を達成する力を身につけている。主体性、協働能力、傾聴力などを含む。

(3) 表現力

自分の考えを的確かつ巧みに文章或いは口頭で表現することができる。場面にふさわしい言葉遣いやマナー、振る舞い、豊かなコミュニケーション力を身につけている。発信力、日本語力、外国語力などを含む。

(4) 情報力

我が国のみならず国際的な動向や問題に幅広い関心を持ち、図書やICT機器を用いて必要な情報を収集できる力を身につけている。情報収集分析力、PCスキルなどを含む。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

大学の情報公開画面で公表している。
<https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	別府大学
設置者名	学校法人別府大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	別府大学ホームページ https://www.beppu-u.ac.jp/general/academy/financial-report/
収支計算書又は損益計算書	別府大学ホームページ https://www.beppu-u.ac.jp/general/academy/financial-report/
財産目録	別府大学ホームページ https://www.beppu-u.ac.jp/general/academy/financial-report/
事業報告書	別府大学ホームページ https://www.beppu-u.ac.jp/general/academy/financial-report/
監事による監査報告(書)	別府大学ホームページ https://www.beppu-u.ac.jp/general/academy/financial-report/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:令和5年度事業計画 対象年度:令和5年度)
公表方法:ホームページ https://www.beppu-u.ac.jp/general/academy/financial-report/
中長期計画(名称:学校法人別府大学中期計画 対象年度:令和4年度～8年度)
公表方法:ホームページ https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:ホームページ https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:ホームページ https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部国際言語・文化学科
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ URL: https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/ ） （概要）言語、文化、文学、芸術実技・理論に関する「日本語・日本文学コース」、「英語・英米文学コース」、「芸術表現コース」において、十分な専門的知識と技術を備え、総合的な視点から諸問題に対応できる広い視野あるいは国際的な視野をもった人材、教員や図書館司書のような、将来、地域教育・学術文化を担う人材、あるいは将来研究者を目指す人材を養成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ URL: https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/ ） （概要）国際言語・文化学科は、本学の定める課程を修了し、「教養」「専門力」「汎用力」の3つの力を身につけたと認められる学生に学士（文学）の学位を授与する。学修にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ URL: https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/ ） （概要）国際言語・文化学科は、ディプロマ・ポリシーに示された学修成果（到達目標）を身につけるために必要な教育課程を体系的・階梯的に編成する。教育課程の構成は、学修成果（到達目標）を適切に分類した科目区分（科目群）を設け、その科目区分（科目群）に応じた科目を設定することを基本とする。各コースで必ず学習すべき内容を扱う科目はコース必修とし、科目の内容に応じて講義＋演習・実験・実習の構成により理論的かつ体験的に学習できるよう履修形態等を工夫する。教育指導にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学生が学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/ ） （概要）○学科教育の特色と育成する人材像 国際言語・文化学科には、「日本語・日本文学コース」、「英語・英米文学コース」、「芸術表現コース」という3つのコースがあり、学生は3つのコースから自らの関心に基づいて自由にコースを選び、そして他のコースをも副コースとして選択して学修することができます。また本学科では、国語、英語、美術の教職免許と、図書館司書・学芸員の資格が取得できます。 本学科は、文学・言語・芸術の分野について十分な専門的知識と技能を備え、広い視野から諸問題に対応できる人材、教員や図書館司書のような、将来地域教育・学術文化を担う人材、あるいは将来研究者を目指す人材を育成することを目的とします。 このような本学科の教育目的を理解し、目的に描かれた人材に成長するための基礎的な能力・資質を有し、目標に向けて主体的に学び自ら人生を切り開いていこうとする意欲を持った学生を求めます。 ○入学者に求める能力・資質は何か ●国語、英語、美術のいずれかについて基礎的な知識・技能を修得していること ●自ら問題の解を見いだしていく思考力・判断力・表現力を有していること

- 自ら行動し、また他者と協働して学習する態度を身につけていること
- 言語・文学・美術に対する関心と意欲を有していること

○高等学校段階までに培ってきたどのような能力を、どのように評価するのか

●国語、英語、美術のいずれかに関する知識・技能の力と、それを活用していく思考力・判断力・表現力を、各選抜区分における学力・実技審査、小論文、口頭試問、面接、調査書、自己調査書、エントリーシート、課題等により測定・評価し、その結果を合否判定に用います。

●主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度と学校内外の活動（部活やボランティアなど）における優れた成績や豊かな経験を、各選抜区分における口頭試問、面接、調査書、自己調査書、エントリーシート等により測定・評価し、その結果を合否判定に用います。

●言語・文学・美術に対する関心と意欲を、各選抜区分における小論文、口頭試問、面接、調査書、自己調査書、エントリーシート、課題等を基に評価し、その結果を合否判定に用います。

各選抜区分で「学力の3要素」を評価することを定めています。

学部等名 文学部史学・文化財学科

教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ

URL:<https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/>)

（概要）「世界史コース」、「日本史・アーカイブズコース」、「考古学・文化財科学コース」の3つの分野において、総合的な視点から諸問題に対応できる広い視野をもった人材、教員や学芸員のような教育や地域文化の継承を担う人材、また、将来研究者を目指す人材を育成することを目的とする。あわせて、習得した知識や技術、経験を活かして社会で柔軟に対応できる人材を育成する。

卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ

URL:<https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/>)

（概要）史学・文化財学科は、本学の定める課程を修了し、「教養」「専門力」「汎用力」の3つの力を身につけたと認められる学生に学士（文学）の学位を授与する。学修にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ

URL:<https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/>)

（概要）史学・文化財学科は、ディプロマ・ポリシーに示された学修成果（到達目標）を身につけるために必要な教育課程を体系的・階梯的に編成する。教育課程の構成は、学修成果（到達目標）を適切に分類した科目区分（科目群）を設け、その科目区分（科目群）に応じた科目を設定することを基本とする。各コースで必ず学習すべき内容を扱う科目はコース必修とし、科目の内容に応じて講義＋演習・実験・実習の構成により理論的かつ体験的に学習できるよう履修形態等を工夫する。教育指導にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学生が学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ

URL:<https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/>)

（概要）

○学科教育の特色と育成する人材像

史学・文化財学科には、「日本史・アーカイブズコース」「世界史コース」「考古学・文化財科学コース」という3つのコースがあり、学生はこの3つのコースから自らの興味・関心に基づいて主コースを選択します。さらに、主コース以外にも興味・関心のあるコースを副コースとして選択して学修することができるため、すべての領域にわたって複数のコ

ースの専門的学問を修得することができます。また、本学科では、中学校社会・高等学校地理歴史及び公民の教職免許、学芸員資格、司書資格、司書教諭資格、文書館専門職（アーキビスト）修了証を取得できます。

史学・文化財学科では、歴史や文化財について広く深く学び、学修した知識・技能を応用して社会に貢献できる人材、また本学科で取得可能な上記の諸資格を活かしてそれぞれの専門分野で活躍できる人材を育成することを目指します。

このような本学科の教育目的を理解し、目的に描かれた人材に成長するための基礎的な能力・資質を有し、目標に向けて主体的に学び自ら人生を切り開いていこうとする意欲を持った学生を求めます。

○入学者に求める能力・資質は何か

- 歴史や地理についての基礎的な知識・技能を修得していること
- 自ら問題の解を見いだしていく思考力・判断力・表現力を有していること
- 自ら行動し、また他者と協働して学習する態度を身につけていること
- 歴史への深い関心を有していること

○高等学校段階までに培ってきたどのような能力を、どのように評価するのか

●世界史・日本史・地理に関する知識・技能の力、及びそれを活用して自ら積極的に考察しそれを分かりやすく伝えることができる思考力・判断力・表現力を、各選抜区分における学力審査、小論文、口頭試問、面接、調査書、自己調査書、エントリーシート、課題等により測定・評価し、その結果を合否判定に用います。

●主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度と学校内外の活動（部活やボランティアなど）における優れた成績や豊かな経験を、各選抜区分における口頭試問、面接、調査書、自己調査書、エントリーシート等により測定・評価し、その結果を合否判定に用います。

●歴史への深い関心を、各選抜区分における口頭試問、面接、調査書、自己調査書、エントリーシート、課題等を基に評価し、その結果を合否判定に用います。

各選抜区分で「学力の3要素」を評価することを定めています。

学部等名 文学部人間関係学科

教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ

URL:<https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/>)

（概要）福祉、心理学、生涯教育（スポーツ分野）に関する「社会福祉領域」、「心理領域」、「教育・生涯スポーツ領域」において、学際的観点に立ち、これらの諸問題を理論的かつ実践的に解決できる人材、公認心理師・社会福祉士・精神保健福祉士・教員・認定心理士などの資格を取得し、地域社会の活性化あるいは再生を担うことができる人材を養成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ

URL:<https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/>)

（概要）人間関係学科は、本学の定める課程を修了し、「教養」「専門力」「汎用力」の3つの力を身につけたと認められる学生に学士（文学）の学位を授与する。学修にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ

URL:<https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/>)

（概要）人間関係学科は、ディプロマ・ポリシーに示された学修成果（到達目標）を身につけるために必要な教育課程を体系的・階梯的に編成する。教育課程の構成は、学修成果（到達目標）を適切に分類した科目区分を設け、その科目区分に応じた科目を設定することを基本とする。各領域で必ず学習すべき内容を扱う科目は領域必修とし、科目の内容に応じて講義＋演習・実験・実習の構成により理論的かつ体験的に学習できるよう履修形態等を工夫する。教育指導にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学生が学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主

体的な人間となることを基本的な目標とする。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ URL:https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/）
（概要） ○学科教育の特色と養成する人材像 人間関係学科では、社会福祉、心理、教育・生涯スポーツ分野に関する「社会福祉領域」、「心理領域」、「教育・生涯スポーツ領域」において、学際的視点に立ち、これらの諸問題を理論的かつ実践的に対応できる人材として社会福祉士・精神保健福祉士・公認心理師・認定心理士・教員などの資格を取得し、地域社会の活性化あるいは再生を担うことができる人材を養成することを目的とします。 このような本学科の教育目的を理解し、目的に描かれた人材に成長するための基礎的な能力・資質を有し、目標にむけて主体的に学び自ら人生を切り開いていこうとする意欲を持った学生を求めます。 ○入学者に求める能力・資質は何か ●社会福祉、心理、教育・生涯スポーツの各分野に関連する科目（国語および任意の1教科）についての基礎的知識・技能を修得しており、将来は人間関係学科で学んだことを用いて地域社会に貢献したいという強い意欲を持っていること ●自ら問題の解を見いだしていく思考力・判断力・表現力を有していること ●自ら行動し、また他者と協働して学習する態度を身につけていること ●学校内外の活動に取り組む意欲と情熱を有していること ○高等学校段階までに培ってきたどのような能力を、どのように評価するのか ●社会福祉、心理、教育・生涯スポーツ分野の基礎となる科目（国語および任意の1教科）、および関連科目の知識・技能を活用し、入学後に自らの希望する専門性を十分に修得できるだけの思考力・判断力・表現力を持っているか、また、身につけた知識・技能を適切に表現できる国語力を持っているかを、各選抜区分における学力審査、小論文、口頭試問、面接、自己調査書、エントリーシート、課題等により測定・評価し、その結果を合否判定に用います。 ●主体的に学び、他者と協働して学問探求に臨む態度を、各選抜区分における口頭試問、面接、自己調査書、エントリーシート等により測定・評価し、その結果を合否判定に用います。 ●学校内外の活動（部活やボランティアなど）における優れた成績や、自分自身や周囲の人間関係に関する問題点について考え、理解や解決を模索したなどの豊かな人間経験を持ち、多様な学びをもとにさらに探求したいという意志を持っていることを、各選抜区分における口頭試問、面接、自己調査書、エントリーシート、課題等を基に評価し、その結果を合否判定に用います。 各選抜区分で「学力の3要素」を評価することを定めています。
学部等名 食物栄養科学部食物栄養学科
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ URL:https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/）

(概要) 食と健康に関する実際に即した専門教育を施し、視野の広い社会観、人間観を涵養することで、食と栄養を通して人びとの健康を守り、病気の予防や回復に貢献する、21世紀の健康的な社会の構築に寄与できる人材を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法: 大学ホームページ URL: https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/)
(概要) 食物栄養学科は、本学の定める課程を修了し、「教養力」「専門力」「汎用力」の3つの力を身につけたと認められる学生に学士(栄養学)の学位を授与する。 1. 教養力(人間性の形成に資する幅広い知識、技能) <社会的意義> 教養教育を享受することによって、生活者としてコミュニケーション能力を発揮して人々と円満な関係を築ける、社会活動や企業活動において他者と調整能力を発揮することができ主導的な役割を担える、社会生活上の問題点を発見し、理論的な洞察力で解決を図れる、現実社会の各種の多様な情報を客観的に理解し、適切に判断するとともに情報ツールを使って有効に活用できるといったことで社会での役割を担うことが期待されているかを明確に理解している。 2. 専門力(専門に関する基本的な知識、技能) <社会的意義> 栄養学および健康科学のもつ社会的な意義や栄養学および健康科学を学ぶことによって人の生き方・暮らし方を選択する能力、社会の変化に対応して生活を組み立てる能力、次世代や他者の生活を支援する能力をもち、保健・医療・福祉・介護システムの中で、栄養補給、食関連サービスのマネジメントを行うことができる能力や健康の保持増進、疾病の一次、二次、三次予防のための栄養指導を行う役割を担うことが期待されているかを明確に理解している。 <職業生活で評価される能力> 栄養学および健康科学の専門教育を通して、特に食・栄養・健康にかかわる専門職業人として社会貢献する能力を身につけている。 3. 汎用力(社会で活用できる汎用性のある能力) 思考力、実行力、表現力、情報力に関する能力を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: 大学ホームページ URL: https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/)
(概要) 食物栄養学科は、ディプロマ・ポリシーに示された学習成果(到達目標)を身につけるために必要な教育課程を体系的・階梯的に編成する。教育課程の構成は、管理栄養士学校指定規則第2条および日本学術会議による「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準」をもとに、学修成果(到達目標)を適切に分類した科目区分を設け、その科目区分に応じた科目を設定することを基本とする。必ず学修すべき内容を扱う科目は必修とし、科目の内容に応じて講義、演習、実験、実習の構成により理論的かつ体験的に学習できるよう履修形態等を工夫する。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法: 大学ホームページ URL: https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/)
(概要) ○学科教育の特色と育成する人材像 食物栄養学科では、食・栄養・健康の分野に関する専門的知識・技術のみならず、必要な倫理観及び問題解決能力の備わった管理栄養士を育成することを目指します。本学科では、地域と提携した主体的・対話的学習(アクティブラーニング)を授業に取り入れており、学生の実践力を育むことで、食・栄養と健康に関する専門家として地域社会の発展に貢献できる人材を育てています。 このような本学科の教育目的を理解し、目的に描かれた人材に成長するための基礎的な能力・資質を有し、目標に向けて主体的に学び自ら人生を切り開いていこうとする意欲を持った学生を求めます。 ○入学者に求める能力・資質は何か ●高等学校教育全科、その中でも国語・英語・理科・数学などについての基礎的な知識・

技能を修得していること ●自ら問題の解を見いだしていく思考力・判断力・表現力を有していること ●自ら行動し、また他者と協働して学習する態度を身につけていること ●食・栄養・健康を学ぶ意欲と情熱を有していること ○高等学校段階までに培ってきたどのような能力を、どのように評価するのか ●国語、英語、理科、数学に関する知識・技能の力と、それらを活用して食・栄養・健康に関連する現象を思考・判断・表現する力を、各選抜区分における学力審査、小論文、口頭試問、面接、調査書、自己調査書、エントリーシート、課題等により測定・評価し、その結果を合否判定に用います。 ●主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度と学校内外の活動（部活やボランティアなど）における優れた成績や豊かな経験を、各選抜区分における口頭試問、面接、調査書、自己調査書、エントリーシート等により測定・評価し、その結果を合否判定に用います。 ●食・栄養・健康を学ぶ意欲と情熱を、各選抜区分における小論文、口頭試問、面接、調査書、自己調査書、エントリーシート、課題等を基に評価し、その結果を合否判定に用います。 各選抜区分で「学力の3要素」を評価することを定めています。
--

学部等名 食物栄養科学部発酵食品学科
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ URL:https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/） （概要）人間教育を中心とし、人格の陶冶に努め、実際に即した食とバイオサイエンスに関する専門教育を行い、地域社会ならびに国際社会の発展に貢献できる有為な人材を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ URL:https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/） （概要）発酵食品学科は、本学の定める課程を修了し、「教養」、「専門力」、「汎用力」の3つの力を身につけたと認められる学生に学士（食物バイオ学）の学位を授与する。学修にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ URL:https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/） （概要）発酵食品学科は、ディプロマ・ポリシーに示された学修成果（到達目標）を身につけるために必要な教育課程を体系的・階梯的に編成する。教育課程の構成は、学修成果（到達目標）を適切に分類した科目区分を設け、その科目区分に応じた科目を設定することを基本とする。必ず学習すべき内容を扱う科目は必修とし、科目の内容に応じて講義、演習、実験、実習の構成により理論的かつ体験的に学習できるよう履修形態等を工夫する。教育指導にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学生が学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ URL:https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/）

(概要) ○学科教育の特色と育成する人材像 発酵食品学科には「発酵食品コース」、「食品流通コース」、「食品香料コース」の3つのコースがあり、それぞれ、醸造発酵学、食品流通、食品香料の分野についての基礎的・専門的知識を修得します。本学科は、発酵食品を含む新たな食の開発やバイオサイエンスの学修に向けての強い意欲と科学的探究心をもった、地域社会や国際社会で人々の「食と暮らし」を支える人材の育成を目指します。 このような本学科の教育目的を理解し、目的に描かれた人材に成長するための基礎的な能力・資質を有し、目標に向けて主体的に学び自ら人生を切り開いていこうとする意欲を持った学生を求めます。 ○入学者に求める能力・資質は何か ●高等学校で修得する理科と数学の基礎的な知識・技能を有していること ●自ら問題の解を見いだしていく思考力・判断力・表現力を有していること ●自ら行動し、また他者と協働して学習する態度を身につけていること ●「食と暮らし」やバイオサイエンスへの深い関心を有していること ○高等学校段階までに培ってきたどのような能力を、どのように評価するのか ●理科と数学の知識・技能を基盤とし、それを活用して他者と課題解決に取り組むことができる思考力、判断力、表現力を、各選抜区分における学力審査、小論文、面接、口頭試問、調査書、自己調査書、エントリーシート、課題等により測定・評価し、その結果を合否判定に用います。 ●主体的に学び、他者と協力して学問探究に臨む態度と学校内外の活動（部活やボランティアなど）における優れた成績や豊かな経験を、各選抜区分における口頭試問、面接、調査書、自己調査書、エントリーシート、課題等により測定・評価し、その結果を合否判定に用います。 ●「食と暮らし」やバイオサイエンスへの深い関心を、各選抜区分における小論文、口頭試問、面接、調査書、自己調査書、エントリーシート、課題等により評価し、その結果を合否判定に用います。 各選抜区分で「学力の3要素」を評価することを定めています。
--

学部等名 国際経営学部国際経営学科
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ URL:https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/) (概要) グローバル化かつ多様化した現代社会において、特に地域的、経済的、社会文化的にクロッシング・ボーダー化した領域において活躍できる経営能力を身につけた人材を養成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ URL:https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/) (概要) 国際経営学科は、本学の定める課程を修了し、「教養」「専門力」「汎用力」の3つの力を身につけたと認められる学生に学士（経営学）の学位を授与する。学修にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ URL:https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/)

(概要) 国際経営学科は、ディプロマ・ポリシーに示された学修成果の目標（到達目標）を身につけるために必要な教育課程を体系的・階梯的に編成する。教育課程の構成は、学修成果の目標（到達目標）を適切に分類した科目区分を設け、その科目区分に応じた科目を設定することを基本とする。必ず学習すべき内容を扱う科目は必修とし、科目の内容に応じて講義＋アクティブラーニングの構成により、理論的かつ体験的に学習できるよう履修形態等を工夫する。教育指導にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由に」に基づき、学生が学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ

URL:<https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/>)

(概要)

○学科教育の特色と育成する人材像

国際経営学科には「国際経営コース」、「会計・税理士コース」、「観光・地域経営コース」の3つのコースがあり、それぞれ経営管理、会計・税務、観光・地域経営分野について、言語表現や情報処理技術を含む専門的知識を修得します。そしてこれらを活用し地域の発展のために貢献できる人材を育成することを教育目標とします。

このような本学科の教育目的を理解し、目的に描かれた人材に成長するための基礎的な能力・資質を有し、目標に向けて主体的に学び自ら人生を切り開いていこうとする意欲を持った学生を求めます。

○入学者に求める能力・資質は何か

●主に社会科学系の科目において、グローバルな視点から地域を考えるための基礎的な知識・技能を修得していること

●目まぐるしい時代の変化に対応するために、自ら問題の解を見いだしていく思考力・判断力・表現力を有していること

●自ら行動し、また他者と協働して学習する態度を身につけていること

●国際経営、会計・税務、観光・地域経営に対する関心と意欲を有していること

○高等学校段階までに培ってきたどのような能力を、どのように評価するのか

●公民、国語、商業に属する科目に関する基礎知識を活用して、課題を発見し解決することができる思考力・判断力・表現力を、各選抜区分における学力審査、小論文、口頭試問、面接、調査書、自己調査書、エントリーシート、課題等により測定・評価し、その結果を合否判定に用います。

●主体的に学び、他者と協働して学問探究に臨む態度と学校内外の活動（部活やボランティア、地方公共団体や地域の企業・団体と連携し活動した経験など）における優れた成績や豊かな経験を、各選抜区分における取得資格・免許、口頭試問、面接、調査書、自己調査書、エントリーシート、課題等により測定・評価し、その結果を合否判定に用います。

●国際経営、会計・税務、観光・地域経営に対する関心と意欲を各選抜区分における小論文、口頭試問、面接、調査書、自己調査書、エントリーシート、課題等を基に評価し、その結果を合否判定に用います。

各選抜区分で「学力の3要素」を評価することを定めています。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：ホームページ <https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	1 人	－					1 人
文学部	－	30 人	17 人	4 人	2 人	人	53 人
食物栄養科学部	－	14 人	2 人	3 人	1 人	人	20 人
国際経営学部	－	11 人	5 人	2 人	人	人	18 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		130 人					130 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：URL: https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
F D委員会を設置し、ここでF Dに関する事項について企画、審議し、①授業内容、授業方法等の自己点検と改善②カリキュラム、シラバスの改善③授業評価に関すること等、年 10 回以上のF D活動を実施している。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	270 人	276 人	102%	1080 人	1178 人	109%	0 人	2 人
食物栄養科学部	120 人	90 人	75%	494 人	434 人	88%	7 人	2 人
国際経営学部	100 人	79 人	79%	400 人	454 人	114%	0 人	3 人
合計	490 人	445 人	91%	1974 人	2063 人	105%	7 人	7 人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文学部	266 人 (100%)	15 人 (5.6%)	188 人 (70.7%)	63 人 (23.7%)
食物栄養科学部	114 人 (100%)	0 人 (0%)	107 人 (93.9%)	7 人 (6.1%)
国際経営学部	116 人 (100%)	3 人 (2.6%)	79 人 (68.1%)	34 人 (29.3%)
合計	496 人 (100%)	18 人 (3.6%)	374 人 (75.4%)	104 人 (21.0%)
(主な進学先・就職先)（任意記載事項） 大分県警、大分銀行（株）、（社福）みのり村、日清医療食品（株）、別府大学大学院				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
文学部	281 人 (100%)	231 人 (82.2%)	11 人 (3.9%)	29 人 (10.3%)	10 人 (3.6%)
食物栄養科学部	119 人 (100%)	110 人 (92.4%)	1 人 (0.8%)	6 人 (5%)	2 人 (1.7%)
国際経営学部	118 人 (100%)	88 人 (74.6%)	3 人 (2.5%)	16 人 (13.6%)	11 人 (9.3%)
合計	518 人 (100%)	429 人 (82.8%)	15 人 (2.9%)	51 人 (9.8%)	23 人 (4.4%)
（備考）入学後に、転学部した学生については、転入後の学部の入学者数に計上している。 また、在学年数不足で卒業出来なかった学生については、留年者数ではなく、その他に計上している。					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）シラバスに、授業概要、到達目標、授業計画、履修条件や関連する科目等、教科書、評価方法とその割合、評価基準、学習相談及び学習成果のフィードバック、法令等に定められた授業科目に含める必要事項、学生へのメッセージ（実務経験のある教員による授業科目についてはその旨）ナンバリング等を記載している。なお、授業の方法（講義、演習、実験、実習の別）については、開講科目一覧を学生に配布し、この中で記載している。 また、年間の授業計画については、授業計画や学校行事等を掲載した学年歴を3月末までに作成し、4月初旬に学生に配布するとともに部分的にホームページやポータルサイトにより公表している。
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）シラバスで示した評価方法・基準とその割合により、学科履修規程に基づき厳格に成績評価を行い、適正に単位を与え、履修を認定している。 また、卒業の認定方針（別紙3）を学科ごとに作成し、必要に応じ見直しを実施している。同方針は、学生へは「学生生活」等の便覧で周知し、さらにカリキュラム・マップを作成し、到達目標としてシラバスに掲載している。 卒業については、この方針や修得単位等を踏まえ、適切に認定している。				
学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	国際言語・文化学科	124 単位	有	各学期 24 単位
	史学・文化財学科	124 単位	有	各学期 24 単位
	人間関係学科	124 単位	有	各学期 24 単位
食物栄養科学部	食物栄養学科	124 単位	有	各学期 24 単位
	発酵食品学科	124 単位	有	各学期 24 単位
国際経営学部	国際経営学科	124 単位	有	各学期 24 単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

※履修単位の登録上限は、GPA3.5以上の学生は26単位とする。

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：公表方法：大学案内 キャンパスガイド https://www.beppu-u.ac.jp/research/institutions/beppucampus/ キャンパスマップ https://www.beppu-u.ac.jp/general/files/campusmap_beppu.pdf 学生生活等 https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
文学部	国際言語・ 文化学科	680,000 円	200,000 円	210,000 円	
	史学・文化 財学科				
	人間関係学 科				
食物栄養 科学部	食物栄養 学科	840,000 円	200,000 円	250,000 円	
	発酵食品 学科				
国際経営 学部	国際経営 学科	680,000 円	200,000 円	210,000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
（概要）本学では、学生支援をさらに充実させるため、学生の質問・相談に応じる時間として、週2コマの「オフィスアワー」を設定しています。オフィスアワーは原則として教員は研究室に在室しています。科目選択、履修登録などに関すること、授業に関する質問・相談や学修法、レポートの書き方などについて相談できます。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
（概要）就職希望者に対する相談・企業受験や教職・公務員受験等の情報提供の場として「キャリア支援センター」を常時開放しており、全学生が利用できます。キャリアカウンセリングをはじめ、就職・進学各種ガイダンス、就職適性試験や公務員・教職受験の模擬試験を適時実施しています。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
（概要）授業中や課外活動中などの体調不良や負傷時には、「健康相談室（保健室）」で対応しています。必要に応じて医療機関の紹介も行います。健康相談室では、禁煙サポートなど、学生の健康維持・増進のための健康相談にも応じています。また、大学生活で悩んだり、友人との関係などで行き詰った時には、「学生相談室」を利用できます。専門のカウンセラーが、みなさんの悩みに耳を傾け、一緒になって最良の解決を目指します。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：大学案内で公表予定、大学ホームページで公表予定 URL: https://www.beppu-u.ac.jp/general/publicinformation/
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F144310111441
学校名	別府大学
設置者名	学校法人別府大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		392人	376人	417人
内 訳	第Ⅰ区分	231人	226人	
	第Ⅱ区分	104人	98人	
	第Ⅲ区分	57人	52人	
家計急変による支援対象者（年間）				—
合計（年間）				422人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（1）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

（2）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人		
修得単位数が標準単位数の5割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下）	—		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	—		
「警告」の区分に連続して該当	—		
計	14人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（2）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期		後半期

（3）退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	0人		
G P A等が下位4分の1	30人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	25人		
計	55人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。